

平成 25 年度（第 135 期） 事業報告書
(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

公益社団法人東京地学協会

I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進する。

II. 事業内容

1. 公益事業

(1) 普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

① 講演会の開催

i) 春季講演会

日時：平成 25 年 6 月 15 日（土）15：30 ～ 17：00

場所：東京地学協会講堂

演題：「邪馬台国所在地論争と古代測量術」 野上道男（東京都立大学名誉教授）

（参加者 20 名）

ii) 秋季講演会

日時：平成 25 年 11 月 16 日（土）14：00 ～ 16：30

場所：弘済会館

演題：総合テーマ「宮澤賢治と西域今昔（いまむかし）」

「東京地学協会と西域探検と宮澤賢治」 加藤碩一（東京地学協会理事）

「宇宙（そら）からみた西域」 渡辺 宏（元国立環境研究所）

「19 世紀から 20 世紀初頭の人たちを魅惑した西域」 長岡正利（元国土地理院）

「地学から見た賢治と西域文学」 金子民雄（歴史家・賢治研究者）

（参加者 32 名）

iii) 地学クラブ講演会

・第 279 回 平成 25 年 4 月 20 日（土）14：00 ～ 15：30 「岩石氷河研究の発展
－地形学の発展の一例として－」 池田 敦（筑波大学大学院生命環境科学研究科）
（参加者 9 名）

・第 280 回 平成 25 年 7 月 20 日（土）14：00 ～ 15：30 「日本アルプスの大規模地すべり－第四紀地形学・地質学の観点から－」 荻谷愛彦（専修大学文学部地理学教室）
（参加者 13 名）

・第 281 回 平成 25 年 9 月 28 日（土）14：00 ～ 15：30 「育水のすすめ－地下水の利用と保全」 中村裕明（GUPI 共生型地下水技術活用研究会）
（参加者 10 名）

・第 282 回 平成 25 年 10 月 26 日（土）14：00 ～ 15：30 「伊能忠敬の業績と東京地学協会」 星埜由尚（元国土地理院長・伊能忠敬研究会）
（参加者 12 名）

- ・第283回 平成25年12月20日(金) 14:00～15:30 「都内での地中熱利用事例見学」、16:00～17:00 「同講演」 笹田政克(NPO 法人地中熱利用促進協会理事長) (参加者15名)
- ・第284回 平成26年3月15日(土) 14:00～15:30 「微生物が作り人が護る:天然記念物“オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地”と錦沼」 三田直樹(産業技術総合研究所) (参加者36名)

② 見学会の開催

以下の見学会を実施した。

i) 海外見学旅行

「オマーン国の地質」 案内者 青木正博(産業技術総合研究所地質標本館名誉館長)

平成26年2月22日(土)～3月1日(土) 8日間(参加者6名)

ii) 国内見学旅行

「錦秋筑波山地域ジオツアー」

案内者 加藤碩一、住田達哉、西岡芳晴、金田玄一(産業技術総合研究所)

平成25年11月2日(土) (参加者11名)

③ 広報活動

i) 日本地球惑星科学連合大会(平成25年5月19日～24日)において、展示ブースを設け、協会の概要や最近の講演会及び見学旅行を紹介するパネルを展示するとともに、地学雑誌の頒布を行った。

ii) 協会ホームページの充実を図った。

④ 日本地学史の編纂

戦後の地学史の「研究の成果(個別分野の調査研究)」のうち、地震学、海洋学、気象学、火山学の分野について、地学雑誌掲載用原稿のまとめを行った。また、地理学、陸水学、地球化学などの分野についても執筆のための準備を始めた。

⑤ 図書室の整備

内外の諸学会・機関から95種類の雑誌・ニュース等を受入れた。また、図書の整理を継続的に行うとともに協会発行の古典的な資料の一部をデジタル化した。

⑥ 専門家紹介(ジオエキスパート制度)

5件の専門家紹介依頼があり、それぞれに適切に対応した。

i) 依頼団体:フジテレビ番組制作会社「株式会社イースト・エンターテイメント」

要望のあった内容:中国甘肅省張掖丹霞地貌(タンカチボウ)の地学情報の提供者紹介

ii) 依頼団体:フジテレビ番組制作会社「株式会社ティーヴィボックス」

要望のあった内容:アメリカ・ルイジアナ州・アサンプション郡・バイユー・コーンの自然公園の湖に生えていた木々が突然地下に飲み込まれた現象の解説者紹介

iii) 依頼団体:書籍企画編集会社「オリーブグリーン」

要望のあった内容:世界の不思議な景観、奇観など自然の造形に関する写真と解説を集めた一般向けの本の企画編集支援者紹介

- iv) 依頼団体：テレビ朝日番組制作会社「トップC」
要望のあった内容：日本の玄武岩の写真を見て場所を推定できる専門家紹介
- v) 依頼団体：朝日放送株式会社
要望のあった内容：アメリカ西部の絶景を紹介する番組のナレーション原稿を添削できる専門家紹介

⑦ 関連団体との協力の推進

- i) 2013年に京都で開催された「国際地理学連合地域会議」組織委員会へ委員を派遣するとともに、組織委員会構成団体として財政的協力を行った。
- ii) 日本地球惑星科学連合、日本自然史学会連合などの関連団体との連携を進めたほか、国際地理オリンピック、国際地学オリンピック等への協賛あるいは後援を行った。

(2) 出版・頒布事業（定款第4条第2号）

① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号2冊と最新の話題や成果を集めた特集号4冊、全1,031ページ（第121巻第2号から第122巻第1号まで）を発行した。

- i) 第122巻第2号 特集号：日本における陸上科学掘削の現状と展望 p.227-384
11論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む。）及び地学ニュース（N7-N18）
- ii) 第122巻第3号 通常号 p.385-545 11論文及び地学ニュース（N19-N27）
- iii) 第122巻第4号 特集号：中部山岳地域の自然環境変動 p.547-790 17論文（特集号序を含む。）及び地学ニュース（N29-N51）
- iv) 第122巻第5号 通常号 p.791-911 8論文及び地学ニュース（N53-N81）
- v) 第122巻第6号 特集号：東京－過去・現在・未来－（Part I） p.913-1098
12論文（特集号 Introduction 及び序説を含む。）及び地学ニュース（N83-N94）
- vi) 第123巻第1号 小特集号：フィリピン・ルソン島のイロシンカルデラとブルサン火山の地質と最近の噴火活動（その1） p.1-158 11論文（小特集序論を含む。）及び地学ニュース（N1-12）

また、本誌発行2ヶ月後を目途に電子版をオンラインジャーナル（J-STAGE）として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を、特集号に関するものを含め13回開催した。

② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成22年3月1日に結ばれた「地球科学図及び地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等742種の出版物を委託販売により頒布した。なお、平成23年9月からは海外からの購入希望にも応じている。今年度の頒布実績は、延2,250部、払出総額にして約368万円であった。

(3) 研究等助成・表彰事業（定款第4条第3号）

① 研究等助成

今年度の申請件数は、研究・調査助成10件及び国際研究集会助成5件であった。審査の結果、前者について8件、後者について1件を採択した。

② 表彰

地学分野において国内で顕著な業績を上げた者若しくは来日する著名な研究者等を対象とする「東京地学協会メダル」を、国際地理学連合（IGU）京都会議に参加のため来日された前 IGU 会長ロナルド・F・アブラー教授に授与した。

2. 収益事業（定款第 5 条第 1 号）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに、国土交通省既設昇降機安全確保緊急促進事業の一環として会館エレベータのリニューアル工事を実施するなど必要に応じた改修を行った。また、来年度からの消費税率引き上げを踏まえ、会館賃貸借料の増税分増額に関する覚え書きを関係者と交換した。